

はかた いせき
博多遺跡は、11世紀後半から対外交流の窓口となった遺跡で、中世を通して国内最大の貿易都市として栄えた博多のはじまりの港と考えられています。ここからはじまる博多の港湾都市としてのにぎわいは現代まで受け継がれています。

博多遺跡を知るための3つの“ここ”

1 ここだけの遺構

発見された石積は、国内でも珍しい港に関係する遺構です。

2 ここだけの出土品

宋との貿易の内容が分かる遺物が出土しています。

3 ここが起点

国際的な港湾都市博多のはじまりを示す遺跡です。

どこにある？

アクセス抜群

博多遺跡群の西側、冷泉小学校跡地で見つかりました。鴻臚館の東側、当時の那珂川の河口域に位置します。鴻臚館とは飛鳥～平安時代において対外交流・交易の窓口となった施設です。



図1：博多遺跡群位置

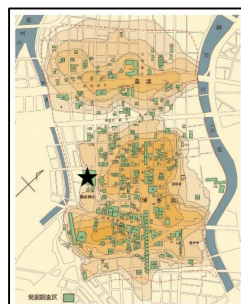


図2：博多遺跡の位置



図3：12世紀ごろの博多の様子

博多遺跡群？博多遺跡？

「博多遺跡群」は中世の国際港湾都市博多の貿易の様子や都市の生活を知ることができる遺跡、国史跡「博多遺跡」は、都市発展の起点となった港湾施設（石積遺構）を中心とした遺跡を指します。

いつの遺跡？

11世紀後半～12世紀前半

鴻臚館廃絶後から使用され、度重なる洪水により使用不能になるまで約100年間、港湾施設として機能していました。

どんな特徴？

希少な中世の港湾施設

石積遺構は当時の水際から6mほど陸側に構築されており、調査では約70mを確認しています。直線的に並ぶ石積は、幅1.2～1.6m、高さ60～80cmを測り、川側（西側）の石材は面を揃えて石垣状に2～4段積み上げられています。石積前面（川側）には幅30cm程度の溝があり、溝内には25cm程度の間隔で杭が打ち込まれていました。石材の重量による地滑りや潮の満ち引きによる崩壊を防ぐための土留めと考えられています。石積遺構のこれらの特徴は、国内では見られない規模や工法と言えます。



写真1：まっすぐにのびる石積遺構

港湾施設としての役割

貿易品の荷揚げ

宋から運ばれてきた多くの貿易品は博多遺跡で荷揚げされ、破損品の選別などが行われていたようです。このことを裏付けるように石積遺構の近くで破損した貿易陶磁器をまとめて廃棄した痕跡が見つっています。また荷揚げのための広場としてつかわれたのか、人工的に整地された痕跡も確認されています。

貿易品の管理・保全

当時の宋との貿易は、大宰府の管理下で行われており、博多遺跡でも鴻臚館と同様に「貿易品の管理・保全」の機能を備えていた可能性が高いです。今回の調査では施設そのものは確認されていませんが、荷揚げ後の貨物の検品等上陸時の手続きを行う場や、取引が完了するまでの間の貨物の保管場所が近くにあったのではないかと考えられています。

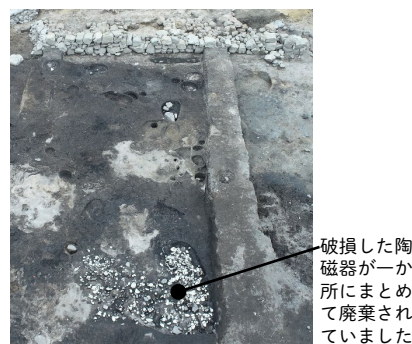
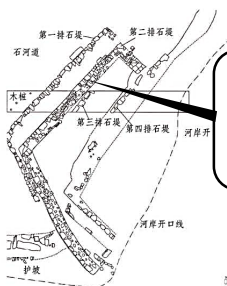


写真2：石積遺構と陶磁器一括廃棄遺構

作ったのは誰？

大宰府との関係

大宰府は、現在の太宰府市～筑紫野市にあった九州全域を統括した地方行政機関です。宋との貿易も、12世紀前半までは大宰府の管理下で行われていたと考えられており、石積遺構の築造にも大宰府が関係していた可能性があります。



【共通点】

- ・直線的。
- ・水平に積む。
- ・加工した石を使わない。

宋商人や工人集団か

石積遺構は、石材を加工することなく丁寧に計画的に直線的に積み立てられています。これは石選別の段階から築造にいたるまで緻密に計算された熟練の土木技術のなせる技といえるでしょう。類例は国内にはなく中国（寧波市鄞江鎮遺跡）にみられることや、宋・元代の尺を用いていると思われる部分もあり、直接の築造にあたったのは宋商人や中国の工人集団である可能性が指摘されています。



図4：鄞江鎮遺跡の石積遺構（上）と博多遺跡石積遺構全体図（下）

「唐房」との関係

博多には商人達が貿易手続き終了までの間の滞在地であり、貿易の拠点を博多構えた商人達のための居住地があったことが知られています。この居住地は「筑前博多津唐房」（1116年『両巻疏知礼記』記載）と呼ばれました。唐房の位置、範囲は確定していませんが、周辺の調査成果からも石積遺構を含む一帯にあった可能性が指摘されています。「唐房」とつながりのあるこの場所に11世紀後半から12世紀前半にかけての宋の工法を用いた石積遺構があることから、石積遺構の築造と「唐房」の整備との間には深い関連性があると考えられます。

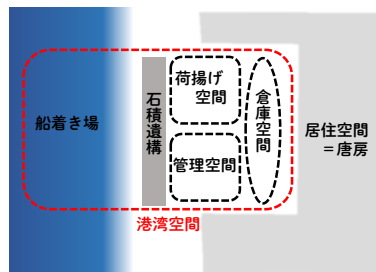


図5：博多の都市空間模式図

出土品で明らかになる日宋貿易



いおう 硫黄

日宋貿易の主要輸出品の一つです。日宋貿易の窓口であったことを証明する、大きな発見となりました。硫黄は土中では短時間で分解されてしまうため、発掘調査で見つかることは稀です。本資料は現存する出土品としては国内最古級のものであります。

ぼくしょとうじき 墨書陶磁器

貿易に携わる組織のリーダーである「綱首」に関連する「綱」や中国人名が記された陶磁器片です。商人達が自分たちの積荷を識別するために記したと考えられています。日宋貿易の担い手を示す重要な資料です。



「孫綱」と墨で記される



日本各地の土器

各地域で作られた日用土器です。商品として流通することは少なく、各地から持ち込まれたものと考えられています。遺跡からは各地の土器が見つかり、さまざまな地域から博多に人が集まってきたことを示しています。貿易品の国内流通の担い手に関連する資料です。

見渡せばそこには…

福岡市は、現在でも品物や人の往来が多い国際交流の盛んな都市です。同じような光景は約1000年以上前の博多遺跡の時代からみられていたのかもしれない。この地を発着した商人や僧侶が伝えたモノや文化は、多くの寺社や博多の伝統工芸、祭りなどの形で受け継がれ今も私たちの生活に息づいています。

展示資料

- 硫黄/貿易陶磁器/石硯/国産土器/墨書陶磁器/八花鏡/木製船雛形/鍍形木製品
- ※会期中展示品の一部入替予定。